

第1 基本的事項

1 地域推進方針作成の趣旨

- 平成30年3月に策定した「第7次北海道医療計画」（以下「道計画」という。）においては、計画の中核をなす疾病・事業それぞれの医療連携体制の構築とその推進について、圏域単位で保健所が市町村、医療機関、関係団体、道民等と共に取り組む必要があることから、道計画の策定に合わせ、第二次医療圏の中心となる保健所において、地域の実情に応じた医療連携体制を構築し、円滑に推進するための方針として、圏域ごとに「地域推進方針」を作成し、また、道計画を令和3年3月に中間見直しを行ったことにより、地域推進方針についても、令和3年度に見直しを行っています。
- 現行の地域推進方針の期間は、道計画と同様におおむね6年間としていることから、令和6年度を始期とする新たな道計画の策定と合わせ、第二次医療圏ごとに設置している保健医療福祉圏域連携推進会議において、現行の地域推進方針における目標の達成状況や施策の進捗状況の評価などを行い、5疾病・6事業及び在宅医療それぞれに係る医療連携体制を構築し、円滑な推進を図るため、十勝圏域における地域推進方針を作成することとしました。

2 地域推進方針の名称

- 第二次医療圏の名称を冠し、「北海道医療計画〔十勝地域推進方針〕」とします。

3 地域推進方針の期間

- 道計画の期間に合わせ、令和6年度から令和11年度までの6年間とします。
ただし、道計画は、在宅医療その他必要な事項については、3年ごとに調査、分析及び評価などを行い、必要がある場合は計画を変更するものとしているので、地域推進方針についても同様の取扱いとします。

4 地域の現況

(1) 地勢と交通

ア 十勝の地勢

- 十勝圏域は、北海道の南東部に位置し、ローマ、シカゴ、バルセロナとほぼ同緯度です。
- 総面積は約1.1万km²で岐阜県とほぼ同じ、東京都の約5倍の広さで、全道面積の約13%を占め、全道14総合振興局・振興局の中で一番広い地域です。
- 地形は南に太平洋が開け、北及び西部を大雪山、日高山脈襟裳の両国立・国定公園に囲まれ、内陸部は十勝平野が広がり、この中央部を大雪山を水源とする十勝川が流れています。
- 気候は、太平洋岸を除き大陸性気候であることが特徴です。夏は、内陸部では比較的高温が続き、冬は、寒冷高気圧（シベリア高気圧）により低温が続きますが、日高山脈で雪雲が遮られることから降雪量は少なく、晴天の日が続きます。
年間を通じて、全国的にも有数の日照時間に恵まれ、年間降水量も少なめです。

イ 交通機関の状況

(空 路)

- 「とから帯広空港」は昭和56年に開港した道内4番目のジェット化空港で、東京（羽田）との定期便のほか、名古屋（中部国際）との定期便が平成26年から季節限定で運航しています。また海外チャーター便も運航しています。

(鉄 路)

- 鉄道はJRが十勝圏と道央圏・釧路圏を結び東西を横断し、帯広～札幌間を最速2時間24分で運行しています。

(道 路)

- 十勝圏域は自動車交通への依存度が高く、主要幹線国道は、国道38号など7路線です。
高速自動車国道である北海道横断自動車道により帯広～札幌間が3時間で結ばれ、さらに本別～釧路間のうち阿寒間が開通しています。
また、高規格道路である帯広～広尾間の自動車専用道路が、忠類大樹ICまで開通し、とから帯広空港や南十勝、日高方面への交通の利便性が向上しました。

ウ 生活圏

- 帯広市及び隣接する音更町、幕別町、芽室町の3町に人口が集中し、4市町で圏域の人口の約75%を占め、増加傾向にあります。
- 医療機関や大型商業店舗は帯広市近郊に集中していましたが、最近では周辺の音更町、幕別町、芽室町でも増加しています。

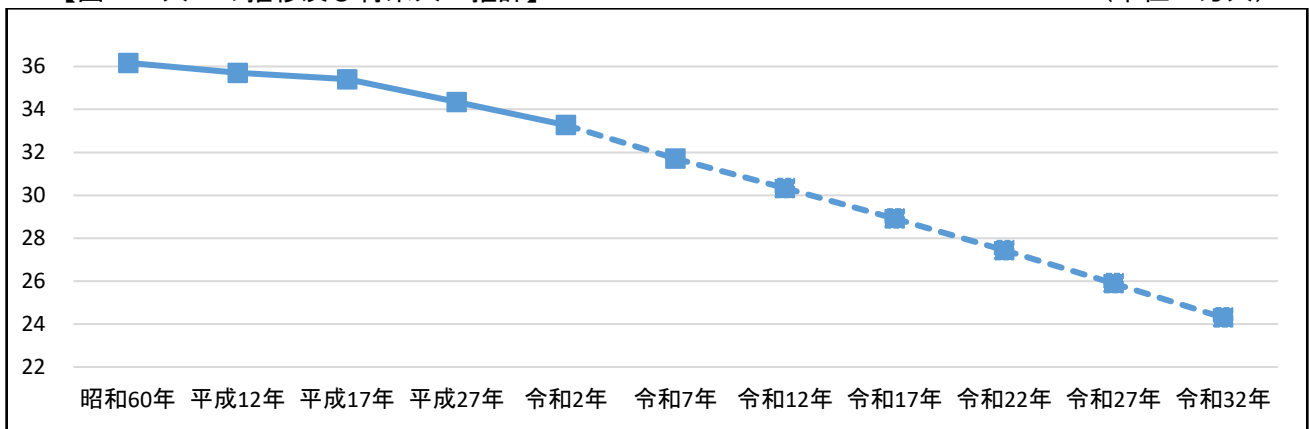
(2) 人口の推移

ア 人口

- 十勝圏域の総人口は、328,861人で全道人口(5,139,913人)の6.4%を占めています。(令和5年1月末現在 住民基本台帳)
国勢調査による人口の推移では、昭和60年の361,700人をピークに減少傾向が続いており、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(令和5年推計)では、令和32年には242,978人に減少すると予測されています。(図1)
- 帯広市が164,014人と圏域の人口の49.8%、さらに周辺の3町において87,914人で26.7%を占めています。(令和5年1月末現在 住民基本台帳)
- 年齢別人口では、14歳以下は平成22年13.3%が令和2年11.7%と減少している一方、65歳以上は24.9%から31.9%に増加し、少子高齢化が進行しています。(国勢調査)
将来推計人口においては、年少人口(14歳以下)割合及び生産年齢人口(15~64歳)割合は減少傾向で、65歳以上人口割合が増加する傾向にあり、令和32年には年少人口割合が9%台になり65歳以上人口割合が42%を超えると予想されています。(図2)

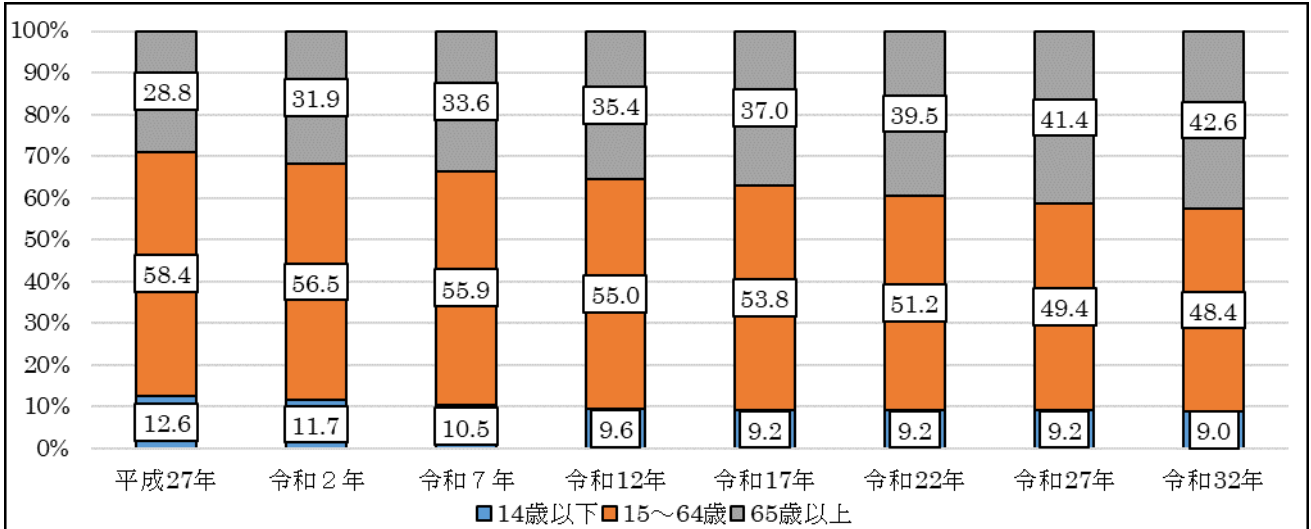
【図1 人口の推移及び将来人口推計】

(単位：万人)



(国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計(令和5年))

【図2 年齢三区別構成割合】



(国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計(令和5年))

イ 世帯数

- 令和2年国勢調査では十勝圏域全体で153,169世帯であり(表1)、世帯当たりの人数は昭和55年の3.24人から2.17人に減少しています。

【表1 市町村別世帯数】

(単位：世帯)

帯広市	音更町	士幌町	上士幌町	鹿追町	新得町	清水町	芽室町	中札内村	更別村
80,175	18,362	2,524	2,350	2,255	2,883	4,166	7,257	1,684	1,311
大樹町	広尾町	幕別町	池田町	豊頃町	本別町	足寄町	陸別町	浦幌町	十勝計
2,593	2,997	11,029	2,974	1,355	3,108	3,097	1,058	1,991	153,169

(令和2年国勢調査(総務省統計局))

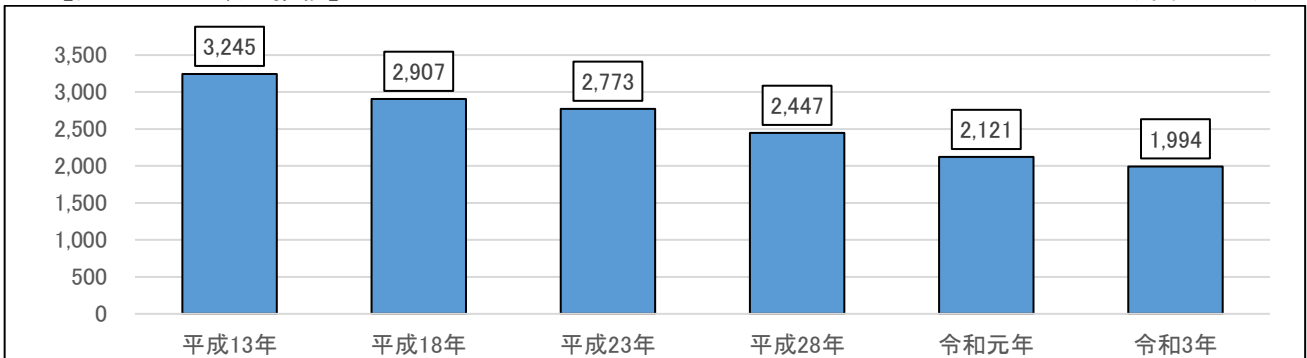
(3) 人口動態

ア 出生数

- 十勝圏域の出生数は令和3年1,994人で、平成13年(3,245人)の61%と、大幅に減少しています。(図3)
- 合計特殊出生率は平成30年～令和4年統計で1.36人で全国(1.33人)、全道(1.21人)より高くなっていますが、減少傾向が続いています。

【図3 出生数の推移】

(単位：人)



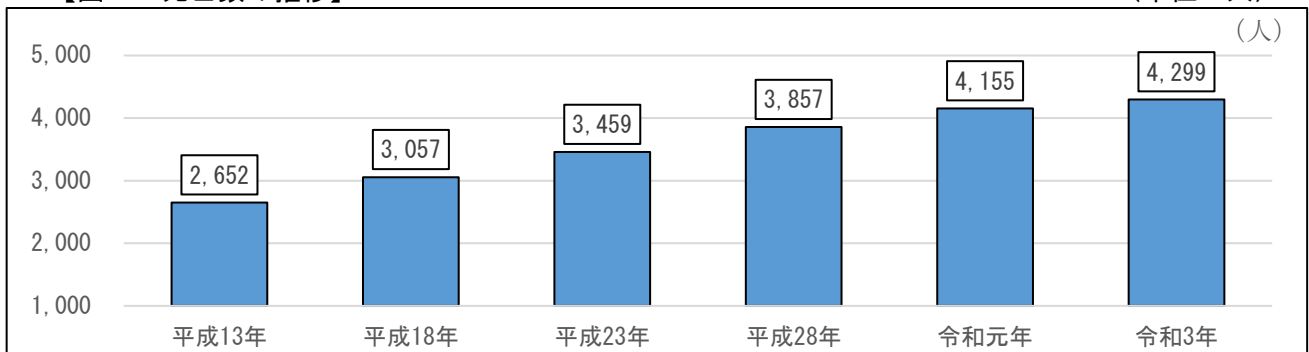
(人口動態調査)

イ 死亡数

- 死亡数は全道同様増加傾向にあり、平成17年には初めて出生数を逆転し、令和3年は4,299人となりました。(図4)
- 死因については第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位は脳血管疾患で、全国・全道と同じ傾向です。(図5)
- 周産期死亡数、乳児死亡数、新生児死亡数はどれも減少傾向にあり、令和3年は周産期死亡数9人、乳児死亡数5人、新生児死亡数3人となっています。(表2)

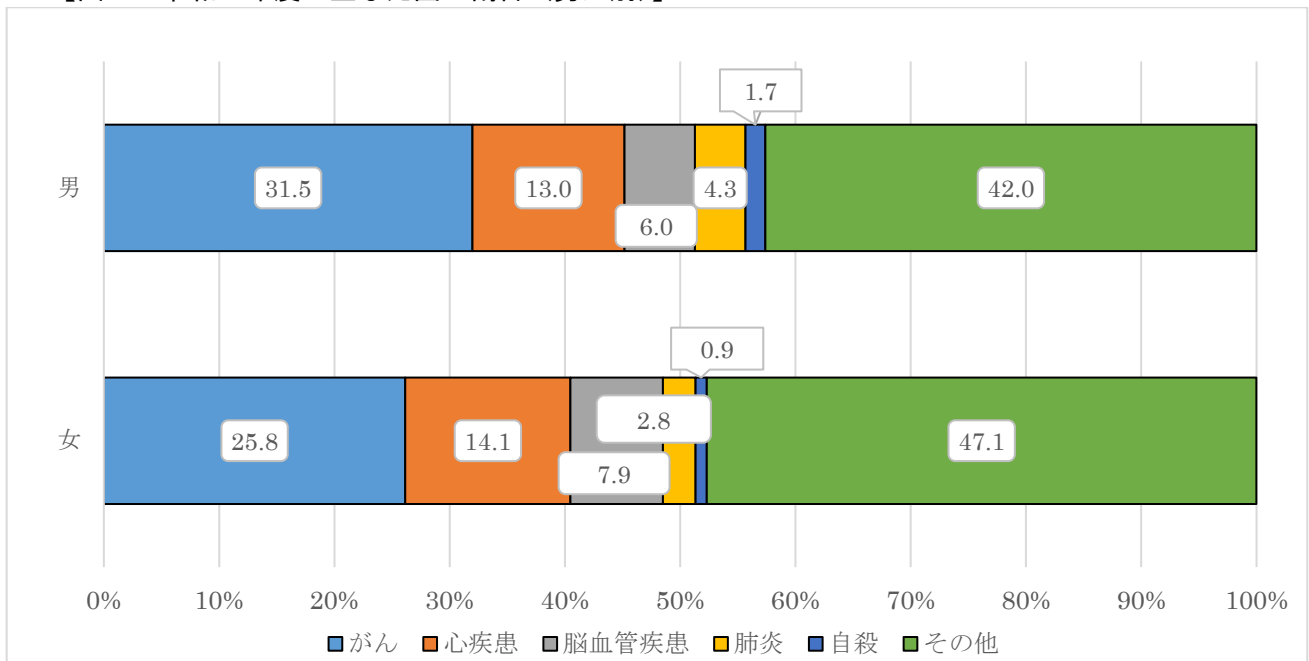
【図4 死亡数の推移】

(単位：人)



(人口動態調査)

【図5 令和3年度の主な死因の割合 (男女別)】



(人口動態調査)

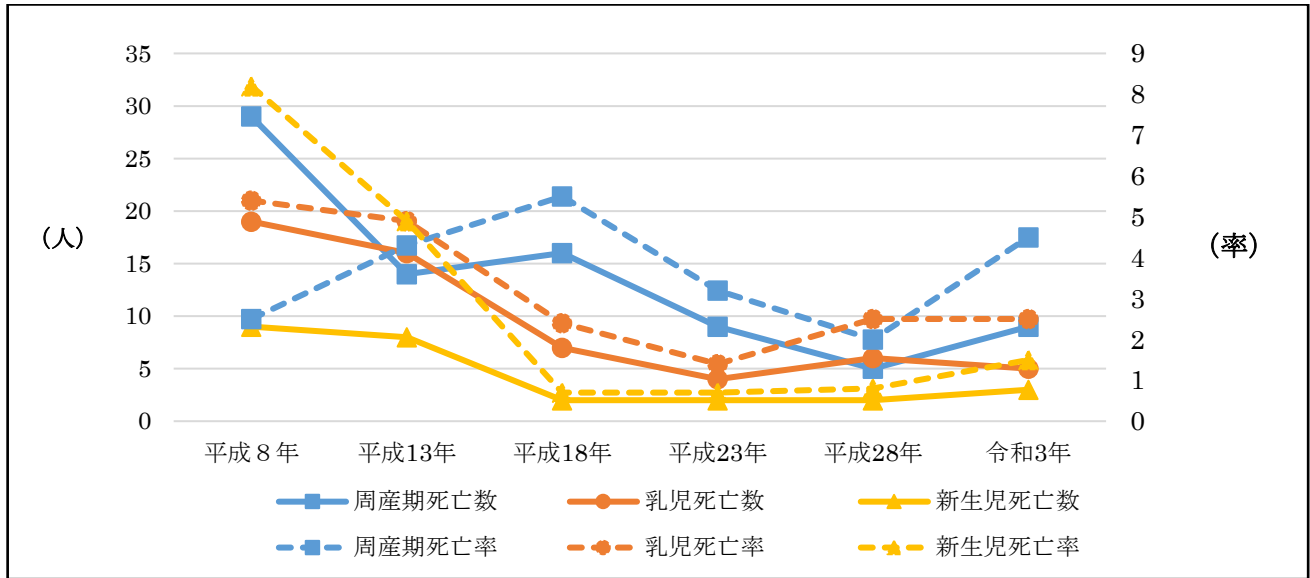
【表2 周産期死亡数・乳児死亡数・新生児死亡数】

(単位：人)

	平成8年	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年	令和3年
周産期死亡数	29(2.5)	14(4.3)	16(5.5)	9(3.2)	5(2.0)	9(4.5)
乳児死亡数	19(5.4)	16(4.9)	7(2.4)	4(1.4)	6(2.5)	5(2.5)
新生児死亡数	9(8.2)	8(4.9)	2(0.7)	2(0.7)	2(0.8)	3(1.5)

*括弧内は死亡率(出生数千対)

(人口動態調査)



ウ 平均寿命

○ 平均寿命は、令和2年では、全道で男性80.9歳、女性87.1歳となっています。

【表3 市町村別平均寿命】

男 女	性	帯広市	音更町	士幌町	上士幌町	鹿追町	新得町	清水町	芽室町	中札内村	更別村
	性	81.2	81.2	81.3	81.1	81.8	80.5	81.5	82.1	81.1	81.4
男 女	性	87.1	87.1	86.8	86.9	87.5	87.1	87.6	87.8	87.5	87.4
	性	大樹町	広尾町	幕別町	池田町	豊頃町	本別町	足寄町	陸別町	浦幌町	
男 女	性	81.3	80.6	81.7	81.0	81.5	80.4	81.8	80.8	81.3	
	性	87.3	87.1	87.1	87.1	87.2	86.8	87.3	87.1	86.7	

(厚生労働省令和2年生命表)

(4) 住民の健康状況

ア 運動習慣の状況

令和4年度特定健康診査「標準的な質問票」によると、運動習慣のある者(週2回、30分以上の持続運動で、1年以上継続する者)は男性で33.2%、女性で30.7%となっています。

イ 喫煙の状況

令和4年度特定健康診査「標準的な質問票」によると、十勝圏域の喫煙者は成人男性では26.0%、成人女性で9.1%となっています。

ウ 高血圧の状況

令和4年度特定健診・特定保健指導等結果によると、「高血圧の治療の薬剤を服用している者」の割合は38.1%と全道の36.8%に比べ高くなっています。

エ 脂質異常・糖尿病の状況

令和2年度特定検診結果によると、LDLコレステロール有所見者の割合は全道を下回っていますが、HbA1cを見ると「6.5以上(受診勧奨判定値)」該当者は全道と比べ高くなっています。

オ 肥満の状況

圏域における40～74歳の肥満者(BMI 25.0以上)の割合は男性42.5%、女性26.0%と男女とも全道平均より高くなっています。

*出典：第8回NDBオープンデータ(厚生労働省)

(5) 患者の受療動向

- 入院患者、外来患者に係る受療動向について、十勝圏域は圏域内自給率が高いですが、高齢化の進行に伴い移動の手段が限られる高齢者への対応が重要です。

【表4 入院患者の受療動向】

患者居住区域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比			
十勝	95.8%	札幌 3.10%	北網 0.45%	上川中部 0.26%	その他 0.43%

【表5 外来患者の受療動向】

患者居住区域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比			
十勝	97.6%	札幌 0.67%	北網 0.25%	富良野 0.12%	その他 1.33%

(入院患者・外来患者の受療動向：北海道医療データ分析センター事業令和4年度)

(6) 医療施設

ア 病院

- 病院数は、平成27年の33所からほぼ横ばいで推移しています。(表6)
- 病床数は、平成15年の5,584床をピークに年々減少し、令和3年10月1日現在4,590床です。(表7)

【表6 病院数の推移】

(単位：か所)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
病院数	33	34	34	34	34	33	32

(北海道保健統計年報)

【表7 病床数の推移】

(単位：床)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
総数	4,754	4,884	4,814	4,804	4,703	4,667	4,590
精神科病床	511	511	511	511	486	467	467
結核病床	14	14	14	14	14	14	-
感染症病床	6	6	6	6	6	6	6
療養病床	1,018	1,058	1,018	998	1,017	1,014	916
一般病床	3,205	3,295	3,265	3,275	3,180	3,166	3,021

(北海道保健統計年報)

【表 8 開設者別病院数】

(単位：か所)

開設者	国	道	市町村	公的病院	医療法人	その他の法人	合計
病院数	1	1	7	3	15	5	32

* 公的病院欄からは、国公立病院を除く。

(北海道保健統計年報)

イ 診療所

- 一般診療所数は、令和 3 年 10 月 1 日現在、有床無床合わせて 201 か所あり、有床診療所が減少傾向で無床診療所は平成 27 年以降横ばいです。(表 9)
- 歯科診療所は、令和 3 年 10 月 1 日現在 167 か所で、平成 27 年以降横ばい傾向です。(表 10)

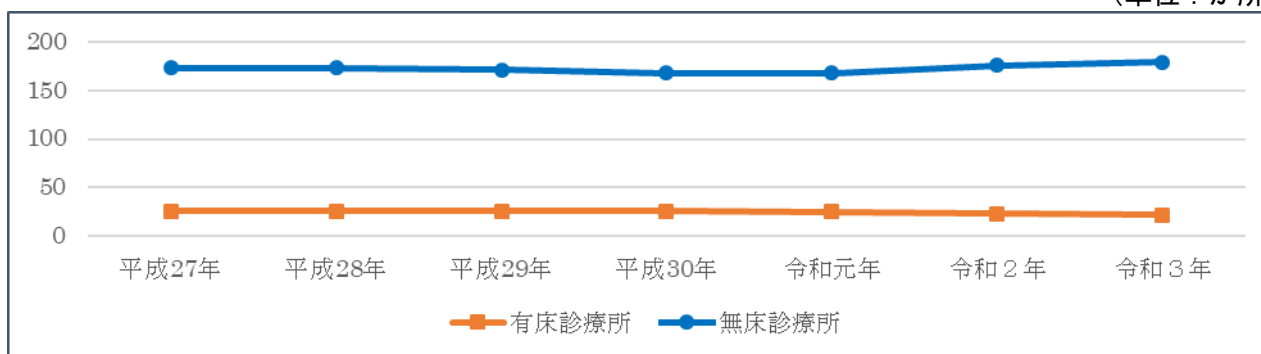
【表 9 一般診療所数の推移】

(単位：か所)

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
総数	199	211	197	194	193	199	201
有床診療所	26	26	26	26	25	23	22
無床診療所	173	173	171	168	168	176	179

(北海道保健統計年報)

(単位：か所)



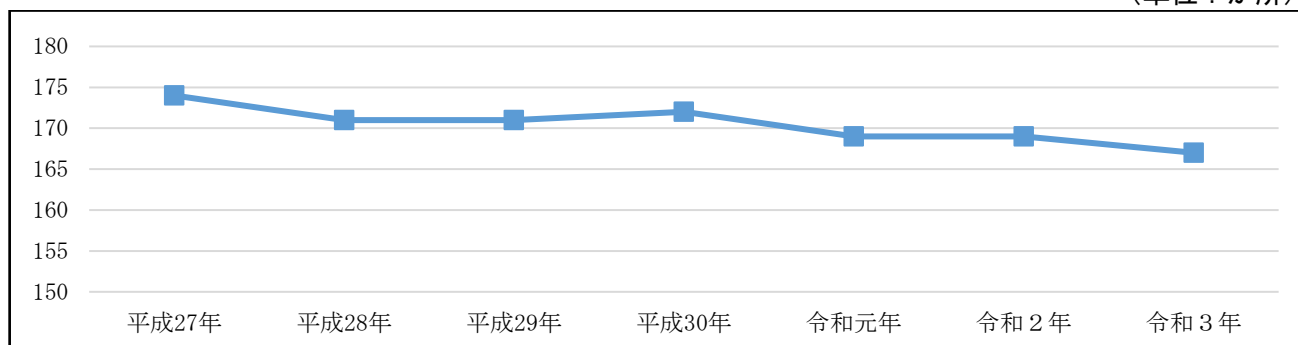
【表 10 歯科診療所数の推移】

(単位：か所)

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
歯科診療所	174	171	171	172	169	169	167

(北海道保健統計年報)

(単位：か所)



ウ 助産所

○ 助産所数は、令和3年10月1日現在11か所であり、施設内で分娩は行っていません。

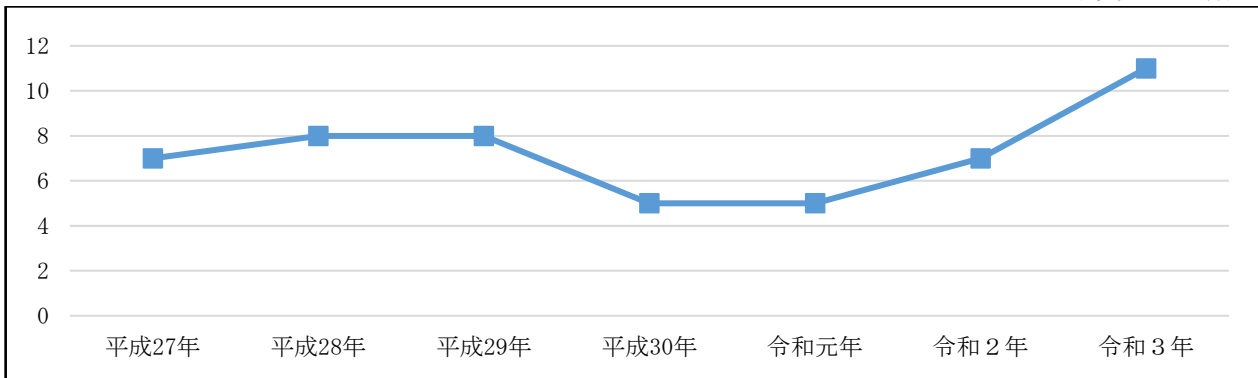
【表11 助産所数の推移】

(単位：か所)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
助産所	7	8	8	5	5	7	11

(十勝地域保健情報年報)

(単位：か所)



エ 薬局

○ 薬局数は、令和3年10月1日現在144か所で、傾向としては横ばいの状況にあります。

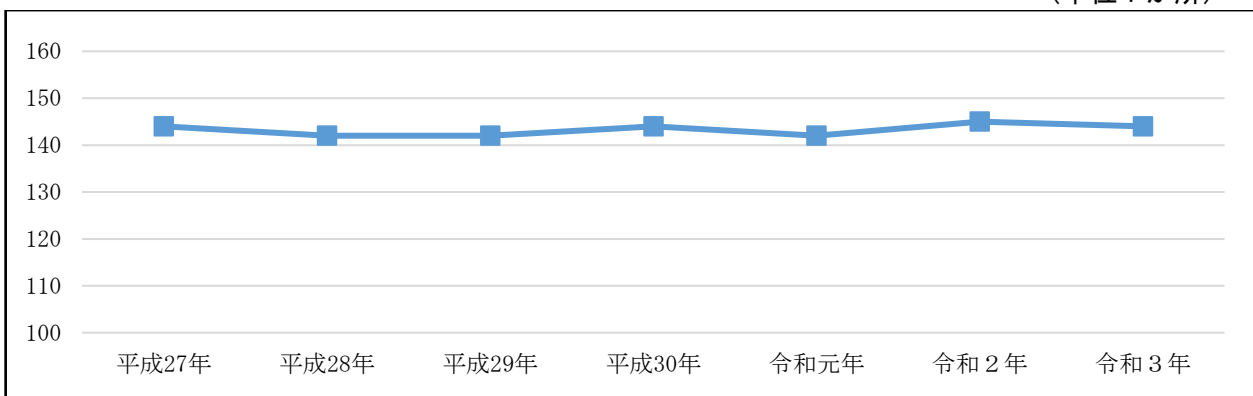
【表12 薬局数の推移】

(単位：か所)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
薬局	144	142	142	144	142	145	144

(北海道保健統計年報)

(単位：か所)



(7) 医療従事者

令和2年人口10万人当たりの十勝圏域の医療従事者数は、医師、歯科医師、薬剤師、看護職員のいずれも全道平均を下回っています。帯広市のみ全道平均を上回っていますが、地域偏在がみられます。(表13)

【表13 人口10万人当たり医療従事者】

	全道平均	圏域平均(割合)	帯広市(割合)
医師	262.8	203.8(77.6%)	323.1(122.9%)
歯科医師	84.6	70.0(82.8%)	87.1(103.0%)
薬剤師	225.9	180.4(79.8%)	250.4(110.8%)
看護職員	1,638.9	1,424.9(86.9%)	1,985.1(121.1%)

*看護職員＝保健師、助産師、看護師、准看護師の計

(十勝地域保健情報年報・北海道保健統計年報)

ア 医師、歯科医師、薬剤師

医師、薬剤師数はそれぞれ増加傾向にあり、令和2年は、平成22年と比較し医師97人(16.7%)、薬剤師89人(17.4%)増加しています。歯科医師数は横ばいの状態です。

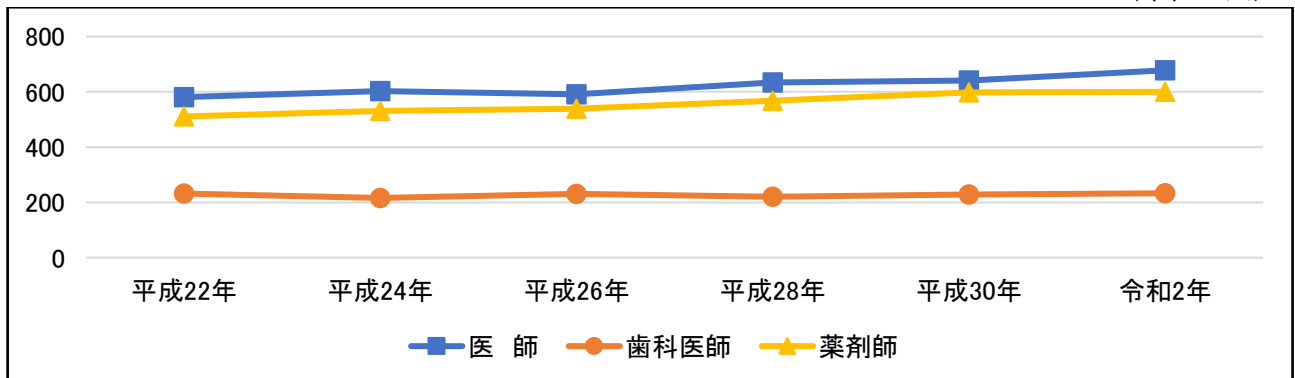
【表14 医師数・歯科医師数・薬剤師数の推移】

(単位：人)

	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年	平成30年	令和2年
医師	581	603	591	634	641	678
歯科医師	232	216	231	220	229	233
薬剤師	511	531	539	568	598	600

(北海道保健統計年報)

(単位：人)



イ 看護師、准看護師

看護師数は増加傾向にあり、令和2年は、平成22年と比較し十勝圏域で693人（26.2%）増加しています。准看護師数は減少傾向となっています。

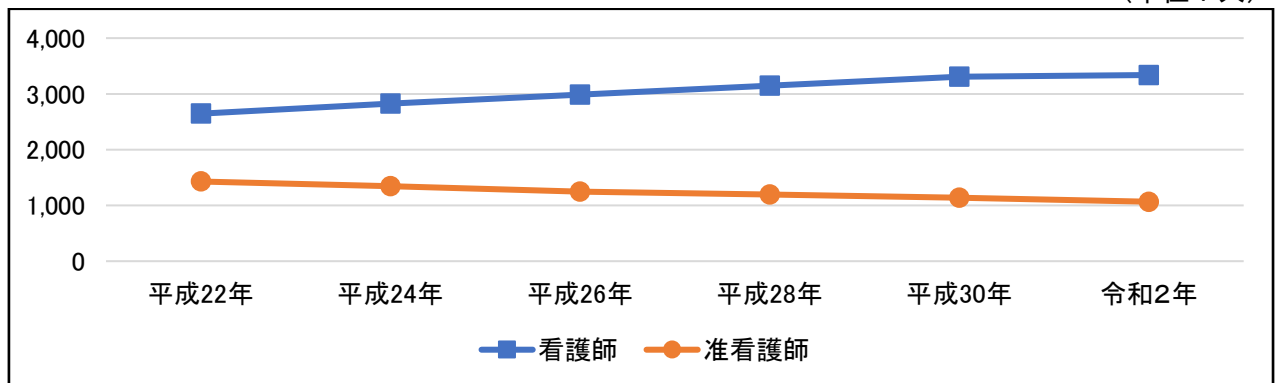
【表 15 看護師数・准看護師数の推移】

（単位：人）

	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年	平成30年	令和2年
看護師数	2,645	2,828	2,985	3,148	3,309	3,338
准看護師数	1,428	1,343	1,245	1,197	1,137	1,066

（看護師等従事者届（各年12月末現在））

（単位：人）



ウ 保健師、助産師

保健師数、助産師数ともに増加傾向にあり、令和2年は平成22年と比較し、保健師49人（19.8%）、助産師21人（25.9%）増加しています。

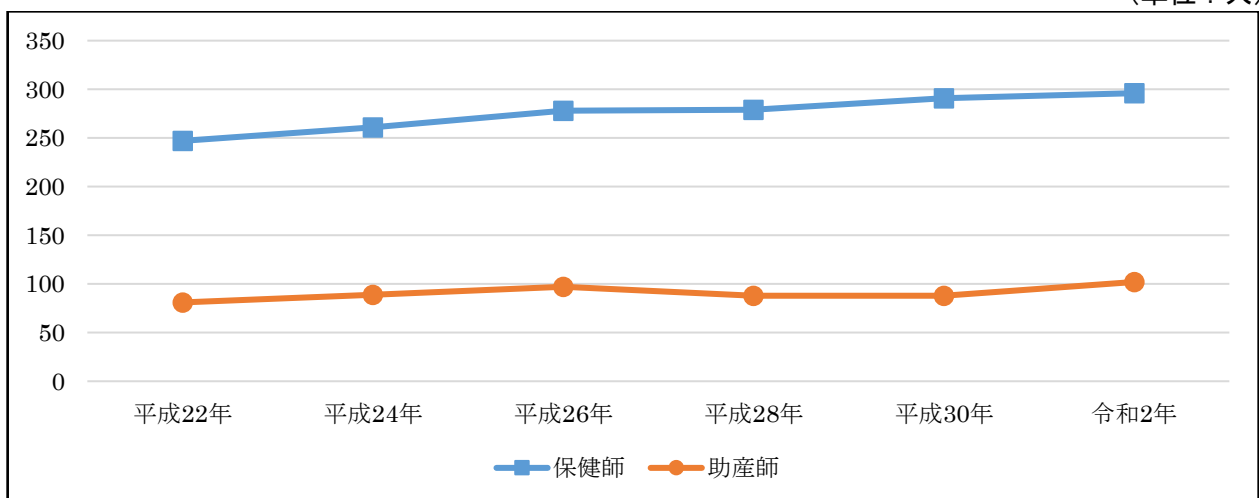
【表 16 保健師数、助産師数の推移】

（単位：人）

	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年	平成30年	令和2年
保健師数	247	261	278	279	291	296
助産師数	81	89	97	88	88	102

（看護師等従事者届（各年12月末現在））

（単位：人）



エ 理学療法士、作業療法士、管理栄養士等

理学療法士、作業療法士、栄養士の病院従事者数は増加傾向にあり、令和2年は平成22年と比較し、理学療法士は159.3人（116.4%増）、作業療法士は76.6人（96.3%増）、栄養士は7.4人（105.7%）増加し、管理栄養士は7.5人（12.9%減）減少しています。（表17）

【表17 理学療法士、作業療法士、管理栄養士、栄養士の状況】（単位：人）

	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年	令和2年
理学療法士	136.8	190.3	207.5	224	296.1
作業療法士	79.5	97.8	116.4	122.3	156.1
管理栄養士	58.2	54.2	60.5	59.8	50.7
栄養士	7	5	4	7.2	14.4

*各年末現在の数値であり、理学療法士、作業療法士については、常勤換算後の人員（北海道保健統計年報）

（単位：人）

